

第 12 回 熊野川減災協議会

会議方法 : WEB 開催

日 時 : 令和 8 年 1 月 19 日(月)10:00~12:00

参加者 : 別添参加名簿のとおり

開 催 結 果 報 告

■議事

・【審議】規約の改定について

- 下記規約の変更について、各機関の異議はないことを確認した。
 - ◇ 別表 3 の第 3 条第 3 項(協議会)および第 4 条第 5 項(幹事会)における関西電力株式会社について、「再生可能エネルギー事業本部」を「水力事業本部」に変更。

・【情報共有】令和 7 年度の取組実施状況

- 本年度の取組実施状況について、各機関が取組内容を紹介した。

(質疑応答)

- P.7「④国土交通省 河川監視カメラ映像の表示」について表示されているのは、国土交通省のすべての河川監視カメラ映像か。(三重県 県土整備部長)
→④は和歌山県内の国土交通省の河川カメラである。(和歌山県河川課)

・【情報共有】令和 3~7 年度の総括

- 令和 3 年度から本年度までの取組進捗状況における各柱の総括と今後の展開を確認した。

・【審議】令和 8 年度以降の熊野川減災協議会

- 下記 2 点について、各機関の異議はないことを確認した。
 - ◇ フォローアップについて、令和 8 年度以降は単年度ごとに必要に応じて適宜取組項目の見直しを行い、これまで開催した協議会活動を継承し、フォローアップに取り組む。
 - ◇ 幹事会・協議会の開催方法について、アンケート結果を踏まえて、令和 8 年度以降の開催方法は WEB 形式を基本とする。なお、今後の開催状況や構成員の希望や調整を踏まえて、開催方法の適宜見直しを図る。

・【意見交換】水防災意識社会の再構築について

- 水防災意識社会の再構築について、下記 2 点の意見交換を実施した。意見交換内容抜粋

は次頁以降の通り。

- ◇ 防災意識向上が住民に浸透したと感じた場面／浸透させるために工夫していること
- ◇ 防災意識向上が住民に浸透していないと感じた場面

・【情報共有】新たな防災気象情報

- 和歌山地方気象台より、令和8年5月下旬より運用を開始する「新しい防災気象情報」を紹介した。

(開会の挨拶)

■紀南河川国道事務所 田中所長

- 本協議会は、平成 27 年 9 月の関東・東北豪雨での甚大な被害を踏まえて、国・県・市・町が連携・協力し、ハード対策と特にソフト対策を一体的にかつ計画的に対策を実施することで、常に洪水に備える水防災意識社会を再構築することを目的に、平成 28 年から実施している。
- 本日の協議会は、令和 7 年度 of 取組と令和 3～7 年度 of 5 力年計画の取組の総括の報告に加えて、水防災意識社会を再構築するという観点で、防災意識を住民に浸透させていくために意見交換を行い、減災協議会の取組が一体的に推進できる有意義な場にしたいと考えている。短い時間ではあるが、活発なご意見等をいただきたい。

(水防災意識社会の構築に関する意見交換)

■紀宝町 西田町長

- 平成 28 年から 6 地区 16 の自主防災組織で「地区タイムライン」を作成し、地域に応じた形で災害に備えるなど、住民の災害に対する意識が高まった。
- 具体例として、平成 29 年台風第 21 号では、床下・床上浸水合わせて 136 世帯の被害が発生したが、早期避難により救助要請はなかった。また、令和 2 年台風第 14 号では、浅里地区において大規模な地すべりが発生したが、事前避難を実施していたため、人的被害はなしであった。
- タイムラインがすべてではなく、その時の状況を調査研究しながら、さらに新たなタイムラインの構築が必要である。引き続きタイムライン防災の充実を図りながら、早期避難の徹底と住民意識の向上に取り組んでいきたい。

■新宮市 上田市長

- 高田地区において、時間雨量 30 ミリまたは 24 時間雨量 120 ミリを達した時点で、自治会が自主避難所の開設検討や開設を行っている。高齢化が進む中、自主避難や早期避難、平時の段階での避難訓練等の実施に取り組んでおり、安全確保に対して非常に意識が高くなっていると感じる。
- 市街地では平成 29 年以降大きな水害が発生していないことや、2 年前の能登半島地震や今年の島根県・鳥取県での地震の影響もあり、地震や津波に対する意識が強くなっている。防災対策課の出前講座の依頼も年間約 40 件のうち 9 割以上が地震に関するテーマであり、水防災意識を市民に浸透させていく工夫に難しさを感じている。水防災意識の構築に向けても努力を進めていきたい。

■紀宝町 西田町長

- 南海トラフ地震への対応に関する思いは新宮市と同じである。紀宝町では、南海トラフ地震

も非常に懸念しており、津波被害が想定される地域でのワークショップの開催やルールブックの配布により、各家庭で発生時の対応や避難体制等を考えていただいている。

- ワークショップ等の意見も踏まえて、地震発生後短時間で津波が襲来する地域であることから、津波避難タワーの建設を進めている。全 4 基あり、うち 2 基は完成している。
- 南海トラフなど各地域の課題はあるが、地域ごとのワークショップ等、常日頃から水防災意識社会の構築を続け、地域コミュニティとしても取り組んでいく、そういった取組を支援しながら町全体が様々な災害に対応できる体制づくりを進めていきたい。

■紀南河川国道事務所 田中所長

- 我々ができる防災授業の内容は水害の危険性や早期避難の必要性についてだが、タイムライン上でのもう少し早い段階でのことが伝えられるとよいと考える。小学校高学年くらいになると天気予報にも関心を持ち始めるので、地方气象台とコラボレーションができるとよいと考えている。
- インバウンドも非常に増えており、地域住民に加えて来訪者の方にも水防意識を持っていただく必要がある。新宮市が紹介された QR コードの掲載を、観光センターや公共交通機関にも掲載する取組など、引き続き関係機関の皆様と連携しながら進めていきたい。

(閉会の挨拶)

■和歌山県 県土整備部 河川下水道局長

- 本年度は和歌山県内で出水期間中の大規模被害は無かったが、全国では九州地方や八丈島で大雨特別警報が発令される等、各地で洪水被害が頻発している状況である。
- 本県においても、南海トラフ地震における津波や紀伊半島大水害の記録的な豪雨等を踏まえて、災害はいつ発生してもおかしくないことを再認識し、様々な事態を想定して緊張感を持って取組を進めていくことが重要であると考えている。
- 本協議会で策定した取組事項について、より一層加速して取り組んでいくとともに、各機関と連携、情報共有をしながら防災・減災対策を着実に進めていきたい。

■三重県 県土整備部長

- 熊野川流域は平成 23 年紀伊半島大水害で甚大な被害を経験した地域であるが、当時の災害を経験していない世代が増加し、災害の記憶が徐々に薄れていくことも懸念されている中、防災意識を風化させないことが私たちにとって非常に大切な危機の課題であると考えている。
- 本協議会を通じて常日頃から顔の見える関係を構築するとともに、知見を持ち寄り、地域の実情に即した議論を重ねられたことは地域全体のレジリエンスを高める上で不可欠なものであると確信しており、深く感謝申し上げたい。

- 紀宝町西田町長からもお話があった通り、家族や住民一人ひとりが自分ごととして防災を捉えるという成功事例は、本当に貴重な取組であると考えている。
- 近年、気候変動の影響により局地的な豪雨や水害の頻発化・激甚化の傾向にあるが、安全安心を守り続けていくには、ハード対策とソフト対策を両輪で進めていくことが不可欠であり、国、県、市町が一体となり、地域の皆様とともに実効性の高い防災、減災対策を推進していきたい。

■新宮市 上田市長

- 新宮市は海岸沿いに市街地が集積しており、地震津波対策や市田川の内水対策、熊野川流域の治水対策などを実施してきた。
- これまで被害に遭われた方、被害が少なかった方の意識の差を埋めていくことや、各種自然災害に対して意識を高めていただくことの難しさを感じている。防災対策課や都市建設課の苦慮も多々あると考えている。
- 皆さんの知恵をお借りしながら、ハード対策のみならずソフト対策も踏まえて被害軽減に努めていきたい。

(退任の挨拶)

■紀宝町 西田町長

- 平成 12 年に鵜殿村の村長として就任し、合併後は紀宝町の町長として平成 18 年から 20 年間、皆様のご支援、ご協力をいただきながら歩んできた。
- 以前より熊野川の清流を取り戻す問題や、砂利採取の問題等対応を迫られてきたが、平成 23 年紀伊半島大水害により一変し、水害対策の取組が大きな課題となり、河床掘削が改めて大きな効果を発揮してくれると感じた。
- 激甚災害対策特別緊急事業や特定都市河川浸水被害対策推進事業を通じて、国、県をはじめ皆さんにご尽力いただき、復旧復興や減災対策について取組を進めていただき感謝している。
- 相野谷川では本川の河床掘削により河床が下がり、地域住民の安全度や安心感が高まってきている。また、熊野川河口大橋(新宮紀宝道路)が完成し、防災減災に対する安全度の向上に大きな効果を発揮していると思う。熊野川の河川整備基本方針や河川整備計画も策定いただき、この先 30 年にわたる計画を策定いただいた。
- これからも防災減災に向けて皆さん方のお力添えを賜れば大変ありがたい。また、一層の活躍のご祈念を申し上げたい。



協議会の実施状況

第12回 熊野川減災協議会(WEB開催) 出席者名簿

新宮市長	上田 勝之
田辺市長	真砂 充敏 〈代理出席:本宮行政局 総務課長 上山 省三〉
北山村長	泉 清久 〈代理出席:総務課 課長 杉浦 有紀〉
紀宝町長	西田 健
熊野市長	河上 敢二 〈代理出席:建設課 課長 乾 義昭〉
和歌山県 県土整備部長	小浪 尊宏 〈代理出席:県土整備部 河川下水道局長 米地 淳〉
三重県 県土整備部長	藤井 和久
気象庁 和歌山地方气象台長	相澤 竜哉
気象庁 津地方气象台長	原田 育郎
近畿地方整備局 紀南河川国道事務所長	田中 雄三
オブザーバ 電源開発 株式会社 西日本支店 支店長代理	奥村 裕史
関西電力 株式会社 吉野水力センター所長	大政 康司
西日本旅客鉄道株式会社 和歌山支社 地域共生室副支社長	礪川 健太郎